

第31回

国際福祉機器展 H.C.R. 2004

介護保険の福祉用具ガイドライン策定される

2004 (平成16)年10月13日～15日
国際展示場「東京ビッグサイト」(有明)

- 出展社645社、来場者138,726人と過去最高規模に達し、手動車いす、電動車いす、リフト、ベッド、スロープ、福祉コンピュータシステムのほか、第2期介護報酬改定で「介護予防」を新たに位置づける方向となったことから歩行等訓練機器、リハビリ用設備が増えた
- 「福祉機器 選び方使い方」は「自助具」「コミュニケーション」の2つのテーマを加え、計8つのテーマで開催。参加者は延べ3,204人、解説用のテキストは計6万部を頒布
- 国際シンポジウム「英国の医療・福祉制度の歩みと展望＝ベバレッジ報告から60年、今後の方向とは」を開催し、英国のNHSプランによる医療改革の動きについて報告、解説した

主催 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会
来場者数 138,726人
出展社数 645社：海外13か国1地域77社、国内568社
◆東展示場 1～6ホール



[第31回 ポスター]



サラ・ハーパー氏



ジョージ・リースン氏



炭谷茂氏

国際シンポジウム内容

1. 英国のヘルスケア (保健福祉・医療) 及び社会福祉システムの概要
2. ヘルスケア及び社会福祉の改革
3. 21世紀の課題への取り組み

サラ・ハーパー氏(オックスフォード大学高齢者研究所長)
ジョージ・リースン氏(同研究員)

チューター
炭谷茂氏(環境事務次官)

▶ 2004年 「介護保険における福祉用具給付の判断基準(ガイドライン)」策定